



発行日 2010.6.20

編集発行人 重富克彦

時は縮まっている。

1Cor7:21

# Kairos

事務所所在地 064-0912 札幌市中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

## スプラクニゾマイ

( μ )

## もう泣かなくてもよい



(主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。)  
(ルカ7:13)

ナインという町にいたやもめは、一人息子の葬列の先頭でどのような表情をしていたかと想像します。喜びのすべて、希望のすべてを失った彼女。涙で頬を濡らしていたのか、声を嗄らして泣いていたのか…。彼女の悲しみに寄り添うように町の人々もそばに付き添っていました。町の門まで来ると、彼女たちは別の集団と出会います。大勢の群集や弟子たちに囲まれた主イエスの一団です。

(主はこの母親を見て、憐れに思われた)とあるように、主イエスは彼女に深い同情を寄せられました。「憐れに思い」と訳されている言葉は、スプラクニゾマイ。共観福音書で、主イエスについてのみ用いられる「相手に強く、心を動かされて、同情する」という意味を持つ言葉です。主がこの母親にぴったりと魂を寄せて、彼女の悲しみをご自分の悲しみとされた事

を示しています。

主は、(もう泣かなくともよい)と言われると葬列に近づいて棺に手を触れ、若者をその母にお返しになりました。主はここで、「死の葬列」を押しとどめられたのです！

福音書には主イエスによって、一度死んだ者が生き返らされたと言う記事がほかにもあります。ルカの8章にあ



るヤイロの娘の話や、ヨハネ福音書11章にあるマルタとマリアの弟ラザロの復活の記事などです。これらの出来事は、主イエスが選ばれた特定の人々に不老不死の力を与えられた、というものではありません。ナインの町の若者も、ヤイロの娘もベタニアのラザロも、やがて死すべき存在であることには変

わりはありません。

マルチン・ルターはこの説教に関して「我々がすでに死んだとしても、この方が、死からの救い手なのだということがここに書かれている。我々は全て死に向かう道を歩いている。その我々自身の前に、まわりにうしろに、この方の御姿を見る。我々すべてと共に死への道を歩まれる方を見る。このことをしっかりと見、捕らえなければならぬ」と、語っているそうです。ルターが語るように、主イエスは、鈍い神ではなく、敏感で鋭い感覚を持って私たち人間の悲惨な現実を受け止めて、激しく心を動かされるお方です。

愛する息子を失い、嘆きと悲しみにくれていた母親に自ら近づいてくださったように、主は私たちに向って来られます。人生におけるさまざまな試練や苦しみや悲しみの中にある時にも、主の愛のまなざしは注がれているのです。そして主は私たちの魂に寄り添ってくださいます。この方との出会い、これこそが喜び、そして希望です。(K. Okada)

# 教会の活動

## ルーテル子どもキャンプ 2010

8月3日(火)～4日(水) むかわ町営穂別キャンプ場

教区主催のルーテル子どもキャンプは、ルーテル教会やその施設につながる子どもたちにとっては、年間最大のイベントだ。参加者も年々増加しており、昨年は、スタッフとしての大人の参加者もふくめて、総勢70名を越えた。めばえ幼稚園の卒園生が多いが、もちろんそうでない子どもたちも少なくない。恵み野、函館、帯広などからも、毎年楽しみにして参加してくれる。参加資格は小学生に限られるが、中学生になって、ジュニアリーダーとして参加してくれる者もいる。参加者からリーダーへの成長を見るのは、主催者にとっても嬉しいことである。

今年のテーマはモーセ物語。エジプトで奴隷状態にあったイスラエルの民を率いて、約束の地に導いたモー

セの物語を通して、どんな困難にあっても、神の守りと導きの確かなことを学ぶ。

学びは、勉強会ふうにはなく、自然の中で、パフォーマンスやアトラクションを交えながら、体感的に学ぶように工夫される。子どもたちも大いに楽しみながら参加してくれる。

すでに募集は開始されており、締め切りは7月21(水)。参加費は、札幌圏は7000円。ただし兄弟姉妹は2人目から6000円。帯広、釧路、函館からの参加者は3500円。交通費を考慮してのことである。

キャンプ長 岡田薫牧師

チャプレン 西川晶子牧師

募集要項は、各教会に配布されている。問い合わせは牧師またはめばえ幼稚園まで。

## 講演会 「人生を支え導くもの」

8月22日午後1時30分 講師 工藤信夫氏 (精神科医)  
札幌礼拝堂

8月22日(日)午後1時30分より「人生を支え、導くもの」というテーマで、工藤信夫氏の講演会が、札幌礼拝堂において開かれる。工藤信夫氏は、弘前大学、大阪大学で精神医学を学び、大阪淀川キリスト教病院で精神科医長など歴任の後、ルーテル学院大学の福祉科でも教鞭を取られた。医学博士。

氏の一貫した仕事の内容を一言で言えば、精神医学の分野からキリストの福音を解き明かそうとする作業だと言ってよいだろう。豊富な臨床経験に基づく氏の著作の人間関係の諸問題への処方箋は、わかりやすく説

得力がある。

講演は午後3時までの予定で、入場料は無料。その後午後3時15分から5時まで、交流会が予定されている。交流会は希望申込者先着20名限定。会費1000円が必要となる。会場をスオミホールに移し、懇談会形式で、茶菓を共にしながら行なわれる。

著書は多数で、販売も行なわれる。交流会参加希望者は、電話、FAX 011-561-9516 またはメール sapporo@jelc.or.jp で、札幌礼拝堂まで。講演会のみの方は、申し込み不要。直接会場に。



元気にラジオ体操

## めばえ幼稚園

### もうすぐ夏休み

数日子どもに会わないと、急に背が伸びたように感じることもある。目の錯覚というのではなく、一週間、二週間で、確かに急に伸びることがあるようだ。特にすみれ組の子に、それが見られる。

いちご組に入園してきた子どもたち

も、一学期も終わりに近くなると、すっかり幼稚園児らしくなった。朝元気にタッチしてくれる小さな手も、もう赤ちゃんの手ではない。

もうすぐ夏休み。夏休みの前に、すみれ組の子たちには、一大イベントが待っている。お泊まり会だ。多くの子が、親元を離れて、友だちとお泊まりする初めての経験。でもみんな少しも心配しない。そこにはいつも優し



く守ってくれている先生たちがいるからだ。そしてなんてたってイエスさまも一緒だから。

## 天国のイメージ

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

詩編 23:1

世の宗教は必ず天国について語っている。けれどその描写はどうしてもこの世のものからの類推になる。その中でも、禁欲的に比喩的表現にとどめているものと、比較的リアルな描写で展開しているものがある。

コーランで語られる天国のイメージは後者で、その描写はリアルで明瞭だ。いかにも砂漠の国で語られる天国のイメージらしい。たとえばこうだ。「二つの楽園には木々が生き茂る。二つの楽園には流れ出る泉が共にある。二つの楽園にはあらゆる果物が二種ずつ実る。彼らは錦織で内張りされた寝台に身を寄せる。二つの楽園になる果物は手近にある。そこには彼らより以前に人間もジンも共に触れたことのない伏し目がちの乙女たちがいる。彼女たちは紅玉か珊瑚のようだ」

「これら二つの楽園の他にもう二つの楽園がある。後の二つの楽園は深緑に包まれている。この二つの楽園には、水が豊かに湧き出る泉がともにある。この二つの楽園には、果物とナツメヤシの木とざくろがある。そこには見目麗しいおとめたちがいる。」

善行を積んだものやジハードに命を献げ者はこのような楽園にすることが許される。

「彼らは好みどおりの果物を選び、鶏肉も望み通りのものを得る。目の大きな色白の乙女もいる。彼女たちはまるで秘められた真珠のよう。これが彼らに対する報償というもの」

至るところにこのような描写が展開されるが、共通しているのは、オアシスの美しい宮殿、美味しい果物やごちそう、しとやかで瞳の美しい乙女などである。さらには決して悪酔いしない酒宴、美少年による給仕なども語

られている。

どうもコーランでの天国の楽園は、成人男子のためのものようだ。目の大きな色白の乙女も、ジハード戦士たちの報償なのだ。もっとも、ジハード戦士ということが、かならずしもイスラム過激派のテロリストのことを意味しないことは付け加えておかなければならないだろう。

とはいえ自爆テロに向かうテロリストたちは、やはり、このような報償を夢見て、死んで行くのだろうか。女性テロリストの場合は、どう考えているのだろうか。彼らにとって大事なものは、報償よりも、たとえば次のような言葉かも知れない。

「信ずる人々よ、お前たちが不信仰



のやからどもの進撃に遭遇したときは、彼らに背を向けてはならない。…お前たちが彼らを殺したのではなくて、神が彼らを殺したもうたのである。」(戦利品の章)

考えてみれば、わたしたちの住む日本は、コーランが描いた楽園のイメージに何と近いことだろうか。深緑、豊かな水、豊富な果物、鶏肉、目の大きな色白の乙女、みんな揃っている。ただ信仰はない。そしてだれもここを楽園とは思っていない。

聖書は、このように具体的な楽園のイメージを描き出すことをしない。その存在を全面的に肯定しながら、付けしてそれを具体的に展開しようと

はしない。けれど隠喩はいたるところにある。

イエスが好んで用いられた隠喩は、「婚縁の宴」や「神と共にする食卓」の喩である。そこでは、金持ちも貧乏人もなく、ただ神を愛し神に愛される者たちが、心ゆくまで宴にあずかる。

黙示録にも、楽園についての隠喩が多々見られる。特に21章の「新しい天と新しい地」は、珠玉のような喩だ。そこにはこうある。

「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取って下さる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。」

ここに見られるように、聖書で語られる楽園のイメージは、一言で言えば、神との関係が完全に回復された世界である。

罪赦されて永遠の命を与えられたものは、この世でのすべての苦しみや悲しみから解放され、永遠の浄福を与えられる。そこに満ちているのは、愛であり、人は皆神の子として、天使のような存在となる。

ではそこで人は何をしているのだろうか。聖書においては、大いなる礼拝と讃美があることが黙示録で語られているだけで、コーランのような感覚的な描写は皆無である。

聖書が、天国やその楽園について、想像たくましく描写することにはきわめて禁欲的であることは、信仰の本質に関わる大事なことである。天国の楽園は、わたしたちの言葉にも想像力にもおさまりきれものではないからだ。地上に別れを告げたら、キリストに迎えていただけ。今はそれだけで十分である。(重富)

## ＜真夏の夜の夢＞

北半球では6月22日前後の夏至には、昼が最も長く、夜が最も短い。北極ではスカンディナヴィアなどの北極に近い国々では白夜となる。白夜のもとでは、ドストエフスキイの作品『白夜』に登場するような「夢想家」が生まれる。

ヨーロッパでは白夜がない地方でも、夏至の前夜には夕べの薄明の中で人々は怪しげな幻想にとられるらしい。夏至は生きとし生けるものの生命力が絶頂に達する時点であり、俗信によれば、夏至の前夜には、森の中では草花が異様な魔力を發揮し、妖精や魔女や悪霊が跳梁するなど、世にも不思議な出来事が生じる。日本では、北海道を例外として、6月の中旬から梅雨期に入り、青空が見える日が少ないので、日照

時間が最も長い夏至を夏季の頂点として意識する人はほとんどいない。夏至祭も、日本固有の伝統的祭事ではない。7月半ばに梅雨が明けて炎暑がくると、はじめて真夏となり、各地で夏祭りが始まる。太陽の運行に基づくヨーロッパの農耕暦では、夏至は穀物や果実が稔りはじめ、農作物の収穫の準備期に当たる時節であるので、夏至祭は豊饒祈願の祭礼として年間行事のなかで最重要の位置を占めた。カトリック教会は、民間暦を教会暦に組み入れたさい、夏至に近い6月24日を洗礼者聖ヨハネの祝日とした。教会がキリスト降誕の日を、「義の太陽」の誕生の時として、老衰した冬の太陽が再生する冬至の日（12月25日）に合

わせて設定したとき（354年）、冬至の対極にある夏至の日を、聖処女マリアの受胎告知が親戚筋の祭司ザカリアの妻エリザベトが身ごもってから6カ月目になされたという伝承に基づいて（ルカ1章26・36）、洗礼者ヨハネの誕生日の6月24日と定めた。カトリック教会は一年の各日の聖人の祝日とその聖人の命日（命日は天国での誕生日）に合わせているが、クリスマスと聖ヨハネの祝日は、例外的に誕生日に合わせた。教会暦は、キリストの降誕日と洗礼者聖ヨハネの誕生日の二極を軸として回転する。夏至祭は、聖ヨ

## ヨーロッパの民衆文化とキリスト キリスト教の中の民間信

栗原 成郎



夏至祭シンボル

ハネ祭の名を冠してはいるが、異教的要素の濃い祭りである。聖ヨハネ祭の中心にあるの

は、火（=太陽）崇拝と水崇拝と植物崇拝である。どの地方でも夏至には必ず「ヨハネの火」とよばれる祝火が焚かれる。「ヨハネの火」は農作物の生長と家畜の繁殖を祈願する農耕儀礼としての火祭りの火であり、遠くからも見えるように山上に、藁を巻きつけた大きな車輪

（日輪の象徴）に聖火（木を擦り合わせて発火させる）を点じる。平地では浄化の火が焚かれて若い男女が、魔を払い清めて健康を祈願するため、また結婚を占う（男女が手をつないだままで無事火の上を跳び越えたら結ばれる）ために、その火の上を跳び越えたり、その周りで踊ったりする。夏至の前夜には草や花は特別な力を持つと信じられ、人々は森に入ってさまざまな薬草を採る。最も好まれる草花は「ヨハネの草」あるいは「ヨハネの花」と呼ばれるオトギリソウ（弟切草）で、聖ヨハネの日の前夜にこの草を採集して冠を

編み、それを家や家畜小屋の中に置くと、魔除けになった。クロアチアではオトギリソウは占いにも用いられ、娘たちはそれで編んだ花冠を屋根の上

に投げ上げ、それが屋根の上に留まれば、その年に縁談はなく、滑り落ちれば結婚できる、と言う。聖ヨハネの日に摘んだオトギリソウは万病に効く薬草とされるばかりでなく、惚れ薬、恋の妙薬になる、とも信じられた。伝説によれば、オトギリソウは斬首された洗礼者ヨハネの血が地に落ちて生じた、あるいは磔刑のキリストの十字架の下に生えていたもので、キリストの血の滴りを受けて、靈験あたらかな薬力を得たという。洗礼者聖ヨハネの「水」の霊力に対する信仰も強く、健康を願って夏至の日の朝露を集めて顔を洗ったり、家畜に飲ませたりする人もいる。



オトギリ草

日本福音ルーテル札幌教会 牧師 重富克彦 岡田 薫

札幌教会 URL <http://www.jelc.or.jp/sapporo>

札幌礼拝堂 064-0912 中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

札幌北礼拝堂 001-0031 北区北31条西4丁目1-5 011-726-3243

新札幌礼拝堂 004-0053 厚別区厚別中央3条6-1-5 011-891-5246